

つたわらない愛情コメント

【物語編】

■カフェ

3人がカフェで食事をした後に雑談している

薫「この店前から行きたいと思っていたんだよねー。」

茉奈「苺のタルトほんとおいしかったぁ。」

薫「また絶対来ようよ。他のメニューも頼みたいし！」

茉奈、真面目な顔つきでスマホになにか入力している翔平を見る

茉奈「翔平、何やってるの？」

翔平「ん？ ああ、この店のレビュー書いてるんだよ。最近ハマっててさ。けっこう反応もいいし。」

薫「へえ。どんなこと書いてあんの？ ちょっと見せて。」

薫、翔平のスマホを借りて見る。次第に薫の表情が曇る

薫「なんか感じ悪くない？」

翔平「そう？ おいしかったからおススメって書いてるじゃん。」

薫「うん。でも、サービスは星2だし「料理の提供が遅いから忙しい人にはおススメしない」とかさ。」

翔平「でも実際そうじゃない？ こういう情報も役に立つかなって。」

薫「あとこれ。「めがねの店員さんがちょっと塩対応」って。こんなこと書くかな。」

茉奈「たしかに、個人のこと書くのはちょっとまずいんじゃない？」

翔平「塩対応って、僕にとっては愛情表現のつもりなんだけど。それぐらいならみんな書いてると思うけどなぁ。それに・・・」

スマホで書き込みを探す

翔平「この前薫がシェアしてた投稿にも書いてあったと思うけど。」

薫「え？ うそ！？ あれ見てこのお店行きたいって思ったんだよ。」

翔平、スマホを操作して薫に見せる

薫「あ、ほんとだ。「店員が不愛想だからお客を選ぶかも・・・」って書いてある・・・いや、私が推したかったのはそこじゃなくて、お店の雰囲気とか料理の写真がかわいかったから、この投稿をシェアしたんだって。」

画面を見ながら

茉奈「しかもそっちのネガティブな方でコメント盛り上がっちゃってるね。「こんな店誰が行くんだよ」とか「接客やる気ないなら辞めればいいのに」とか書いてある。」

薫「えええ。じゃあ私なんかそれ面白がってる人みたいじゃん！ 取り消し取り消し。」
慌てて自分のスマホを操作する

翔平「取り消したって、もうみんな読んじゃってるし。」

茉奈「一部分だけ変に盛り上がっちゃう場合もあるし、ネガティブなことって書かない方がいいのかな。」

翔平「でも、ネットは自由なのが魅力って言うよね。何気ない感想を書くのもダメってこと？」

三人は悩ましそうな表情を浮かべる

【解説編】

■カフェ

天の声「みなさん、お悩みのようですね。」

翔平「率直な感想をネットにあげようと思ったんですけど・・・ネットって自由な場じゃないんですか？」

天の声「まず、ネットの自由というのは、ネット上での活動に政府などの権力が及ばない、という意味での「自由」です。なんでも書いて良いという意味ではありません。」

茉奈「ネット上での発言にも責任が伴う、ってことですね。」

天の声「はい。また、同じ書き込みであったとしても、前後の文脈によって意味が変わることもありますし、受け手の解釈によって好意的にも否定的にも捉えられる可能性があります。」

翔平「難しいですね・・・」

薫「何気ない書き込みが、罪に問われることもあるのでしょうか。」

天の声「特に、ネット上での書き込みが悪質な悪口や根拠のないうわさで、それにより他人を傷つけた場合は、名誉棄損罪や侮辱罪などの刑事責任を問われる場合もあります。」

また、対面だとすぐに和解できるようなことでも、ネットの場合は書き込みが残ります。仮にそれを削除しても、読んだ人の記憶まで消すことができないという事実には注意しなければいけません。」

薫「そっかあ。消しただけではダメなんですね。私がシェアした投稿も、意図していない方向で盛り上がってしまっていました。」

天の声「批判的なコメントは特に印象に残りやすいですからね。本人にそのつもりがなくても、「シェア」や「いいね」は投稿の内容に賛同していると捉えられることや、誹謗中傷に加担していると見られることもあります。」

また、書き込みを読んだ人がその情報に影響を受けたり拡散したりすることで、書かれた側は、大勢から非難されているように感じるかもしれません。」

投稿の批判の部分だけが切り取られて、それがさらに批判を産み、歯止めが効かなくなってしまうこともあります。」

薫「そっか、何気なくシェアすることが、相手に大きなダメージを与えることもあるんですね。」

翔平「僕も、相手がどう受け取るか、考えてから投稿するようにします。」

茉奈「で、翔平が言った塩対応は褒め言葉でいいんだっけ？」

少し考えて

翔平「そうだ！ これからは「ツンデレ」でいきます。」

茉奈「うーん、それもネガティブじゃない？」

薫「かわらないかも（笑）。」

翔平「え～、僕の愛情はどうやったら伝わるんだ」

茉奈「え～、愛情か～」

薫「え、無理じゃない（笑）。」

翔平「無理じゃないよ〜。」